

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0690800297		
法人名	社会福祉法人		
事業所名	グループホームライフケア黒森		
所在地	山形県酒田市黒森字葎葉山54-10		
自己評価作成日	平成 30 年 12 月 25 日	開設年月日	平成 26 年 4 月 1 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3-10		
訪問調査日	平成31年2月26日	評価結果決定日	平成31年3月12日

(ユニット名)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者が「心地よい感覚」を持ち、生活できるよう支えていくことをコンセプトの中の一つに掲げ、ご利用者は勿論職員も笑顔の多い職場となっています。心地よい感覚を持って頂けるように、認知症緩和ケアの取り組みとして「学習療法」を取り入れており、現在はご希望のあるご利用者を対象に提供しています。ご利用者と職員が協力しながら畑作り、自分達で野菜を育て収穫することで楽しみや昔の事を思い出し、水遣りなどの役割を持った生活を送っています。地域で開催されるイベントなどにも積極的に参加し、地域の一員として交流を持っており、その様子などを「グループホーム通信」でご家族に発信しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は開設以来約5年になる。これまでの目標達成計画の着実な実施などにより、安定した支援が出来つつある。特に、三つのコンセプトの中核に利用者の「心地よい感覚」を据えて努力しているが、職員も、利用者と一緒に時間を作りだし、希望を訊き出し、家族の協力を得て「一人ひとりの楽しみを引き出す」ことに努めるなど、理念を大切にされた支援に尽力している。また、同一敷地の法人施設と協力し、防災を含め様々な分野で地域と交流が出来るようになって、地域の一員となりつつある。そして、事業所は、外観のみならず、調度品や飾り物などにも配慮され、大人が快適に生活できる屋内となっていることも特徴であろう。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内の数箇所に事業所コンセプトに掲示し、全職員の視覚に届く様にしている。また、会議等でコンセプトの共有や判断に困ったときの判断基準となることを説明し実践につなげている	「その人らしさ」「家族との関わり」「地域の一員として」という事業所コンセプトを玄関等に掲示し、また、会議の中で、個別の事例について話し合い、共有し合うことで「心地よく」生活できるよう支援している。職員は、「一人ひとりの楽しみ」を引き出せるように、一対一でかかわる時間大切にして希望を聞き出し個々に応じた支援をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小中学校や地域の行事への参加を積極的に行っている。施設の敷地内も保育園の散歩コースとなっており、その際は園児と交流している。また、定期的に地域の方が喫茶ボランティアに来てくださり、馴染みの関係作りができています。	設立以来の努力により、地域との交流が多くなってきている。近くの小学校のすもう大会などに招かれたり、地域公民館のいきいき体操や敬老会・文化祭に参加したりする一方、中学生の職場訪問を受けたりしている。また、定期的に傾聴や喫茶ボランティアの訪問を受けたり、様々な交流がある。地域との合同災害避難訓練も行われたり、地域の一員として日常的に交流がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域と合同での避難訓練や学生のインターンシップや福祉の職場体験などの受け入れを行い、認知症のご利用者との関わりをもっといただいている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議を有効に活用し、事業計画や実績報告や活動内容を報告し、委員からの意見を聞きながら運営に活かしている。	2か月に1回、市職員、自治会代表、民生委員、包括職員、福祉有識者、家族代表と職員とで運営推進会議を開催している。会議では、利用者や運営状況、行事等について報告し、また、所内生活や個別外出の様子をスライドで見せて頂き、それを基に自由な意見を頂き、それを参考にサービス向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議での情報提供や運営に関し疑問点がある場合は、市町村担当者に電話や直接出向き指導を受けたり、案内文書等は電子メールでのやり取りを行っている。</p>	<p>市職員からは毎回運営推進会議に出席して頂き意見を出してもらっている。また、月1回相談員の訪問を受け、希望等を訊いて頂いている。一方、市の事業所連絡会地域密着部会には毎回出席し、その際などに情報や意見交換を行い、困難事例の対応を相談するなど、市との協力関係を築いている。</p>	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>法人全体内部の身体拘束内部研修を開催し、身体拘束をすることでおきる弊害等の理解に努めている。また、毎月開催している運営会議で、法人全体の身体拘束に関する状況を把握している。現在、施設に関してはグループホームだけでなく法人全体の課題としてワーキングチーム「施設しない生活を考える会」での研修を行い、職員共通認識のもと支援を行っている。施設はしていますが、外へ行く機会は都度設けている。</p>	<p>日頃から、法人全体の身体拘束研修において、弊害等の理解促進を図っている。身体拘束廃止宣言の掲示や指針の見直しが行われ職員に周知している。危険に繋がる行為を引き起こす方にも、カンファレンスでその原因や適切な対応方針を話し合い、拘束しないで対応している。外出したがる利用者への対応についても、否定せずその理由を検討し職員間で共有し見守り安全を確保している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>年度当初に法人内の社会福祉士より全法人職員に対し高齢者虐待防止法等についての研修を開催されており、理解を深め日々の介護に活かしている。また、そのような事案のニュースが出た際や、外部研修に参加する事で新たな情報を得て、事業所内で申し送りを利用し注意喚気を行っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>年度当初に法人内の社会福祉士より全法人職員に対し制度についての研修会が開催されており、理解を深め日々の介護に活かしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前に直接ご家族と管理者が面談する機会を設け、事業に関する説明や質問のやり取りを行い、ご家族が納得して頂いた上で、重要事項説明書及び契約書の説明・同意・契約している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者・ご家族から直接の話や聞いたり、年に1回、満足度調査アンケートを実施しサービスの質を向上に努めている。またその結果をご家族にも公表している。	昨年の目標達成計画に従い、グループホームだよりを利用者の生活の様子や近況報告を行っている。普段のケアの中で、面会や行事などを通して、家族とのかかわりを大切に話しやすい雰囲気を作りながら意見や要望を聞いている。年1回満足度調査も行っている。毎月介護相談員の訪問があり利用者が外部者に直接意見等表せるいい機会となっている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員が個人面談する機会があり、意見や提案を聞くことができている。また定期的に事業所会議を開催しており、意見を反映させている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内で人事考課制を導入し、自己評価による一次考課と役職職員による二次考課の総合評価を基に上層部と面談する機会がある。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内でキャリアパス制度を取り入れ、経験年数に応じた研修プログラムを実行している。また、外部研修も受講している。	法人のキャリアパス制度と年間研修計画により、各階層の職員が、基本的な知識や中堅的・管理的技能を獲得できるよう研修を行っている。事業所内部では、研修担当職員が中心になって具体的で実践的な内容の研修を企画し学んでいる。その他の県や全国レベルの外部研修にも適任者を派遣し、終了後は伝達研修も行っている。また、人事考課の一環として、職員と管理者等との面談機会が有り、その際に職員の目標や希望を聞き、育成を図っている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	山形県認知症高齢者グループホーム連絡協議会へ入会している。また、酒田市サービス事業者連絡協議会「地域密着型サービス事業所部会」にも所属しており、各種研修会や他施設との情報交換を行っている。	県・庄内地区グループホーム連絡協議会の研修会や情報交換会、市の地域密着型サービス事業所部会研修会などに管理者や職員を派遣し、同業者の職員との人的なネットワークの形成を促し、サービス向上に繋げるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者と管理者が事前にお会いし、本人の状況や要望等を情報収集し、良好な関係づくりに努めている。また入居前に24H事前聞き取り表の記載をご家族に依頼することで、入居後も本人の生活リズムが継続できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と管理者が事前にお会いし、ご家族から不安な事・要望等を十分にアセスメントし、必要な支援方法を共に考え介護計画を作成している。また、入所前に24時間事前聞き取り表の記載に関する目的を説明し、協力を頂く事で、ご家族が安心出来るような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	的確なアセスメントを行い、ご利用者とご家族がその時必要としている支援を職員で密な情報共有をすると共に、相談の内容によっては法人内外の他サービスとの連携に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所前からの生活が継続出来るように、個人に合った役割や一人では困難なご利用者もいるが他ご利用者や職員と共に行うことで時間を共有している。また、その都度感謝を伝えることで、支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関わりを大切にすることをコンセプトに掲げており、行事や外出の際はご家族の参加を促し、情報交換の場としている。家族対応の通院や外泊時はご利用者の状況を報告し共有を図っている。また、個別アルバムやおたよりを通じて行事やGHでの生活の様子をご家族と共有し信頼関係の構築に努めている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同法人を利用されている親戚や友人がいる場合は関係が途切れないように継続して会いに行けるよう努めている。また、個別ドライブを利用し、普段の会話の中や本人・ご家族から希望を聞き出し馴染みの場所へ出掛ける支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者一人ひとりの性格を理解し、職員も輪に入り居間の席配置の工夫や、役割等のご利用者同士が協力出来るように役割を促しお願いしている。また、目や耳が不自由なご利用者に対しても、職員が間に入り他のご利用者との関わり合いを持つことで孤立する事なく生活できている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームを退居され、同法人内の他事業所に入所されたご利用者、家族に対しあいさつや会話等を通してこれまでの関係性を大切にしている。また、同法人内で終末期を迎えたご利用者の経過を把握し、亡くなられた際はお見送りをしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や学習療法のコミュニケーションを通してご利用者の思いを汲み取るっている。また、意向の確認が困難な場合は、ご利用者の既往歴や生活歴、ご家族等からの思いや暮らし方の希望、意向を聞き取りをしている。	事業所コンセプトを踏まえて、「その人らしさ」を大切にしている。利用に当たった生活歴や生活環境調査に加え、利用後の、特に学習療法等の対一の機会を活用し、詳しく訊き、「小さな変化を感じ取るようにし」、それを基に、皆で本人本位に検討するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者・ご家族や面会の方々との関係を大切に、学習療法実施中のコミュニケーションなどで生活歴や趣味・毎日の習慣等の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の現状を把握し、その都度24時間シート・ケアプランの更新を行っている。また、週に一度バイタル測定・月に1回体重測定を行い、パソコン・口頭での申し送りをすることで、職員間で情報を共有し把握に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	(10)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画については、月に1回担当職員が計画の進捗状況を確認している。</p> <p>また、入居者及び関係者との連携の中で必要となればサービス担当者会議を開催し、介護計画の見直しができるようにしている。</p>	<p>月に1回、担当職員がモニタリングを行い、特に変化がなければ1年に1回介護計画の見直しを実施している。見直しに際しては、できること等を詳細に記録しているケース記録や、本人・家族等の思いを踏まえて、「できるだけ役割を發揮しながら自宅の延長として生活してもらう」ことを共通意識として、担当者会議で話し合い作成している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別記録は日々のパソコンへ入力しており、特に重要な項目は口頭・パソコンの申し送りを使用している。また、月に一度担当職員でモニタリングを行い、サービス担当者会議や随時ミーティングなどで報告・見直しをし、職員間で情報共有に努めている。</p>			
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の商店で買い物を行い、コミュニティーセンターで開催されている介護予防体操などに参加し、地域の人のと関わりを大切にし地域の一員として生活している。また、社会福祉協議会にて、ご利用者の権利擁護や金銭管理支援等で個別ケースにて関わりがある方がいる。</p>			
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医と連携を図りながら、職員付き添いにて月に一度定期通院を行っている。また、以前より通っている医院へはご家族の無理のない範囲で通院へ行っていただき、その際、ご利用者の状態報告などを電話連絡だけでなく書面にてお知らせし連携を図っている。</p>	<p>本人や家族の希望する医師を、家族や職員の付添いで受診している。多くの利用者は、職員の付添いで、協力医を受診している。受診の際は書面で情報を提供し、診察結果は家族と連絡し合い、きちんと整理している。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>常に看護職員とコミュニケーションを図り、週に一度のバイタル測定や月に一度の体重測定を行ないご利用者の状態把握に努め、看護職員と連携を図りながらご利用者が適切に医療が受けられるよう情報提供を行っている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>ご家族や協力医療機関と情報交換を密にし、入院した際は地域医療室と連携を図り、退院前には面会を行いご利用者の状態把握を行い、退院後の生活について考えていくよう努めている。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時には事業所の対応可能範囲をご説明し、共同生活が困難になった際は、ご利用者やご家族と話し合いをし支援を検討していく。重度化した際は、ご家族に同法人内の事業所等も検討していただき、入所までの間は多職種連携を図りながら本人の生活を支援していく。</p>	<p>重度化した場合等の対応については、利用開始時に、できることを家族等に詳しく説明し、意向も確認している。身体状況が変化した場合は、家族、協力医等、看護師、職員で繰り返し話し合い、また、法人の他施設と協力をしながら、適切な対応を検討していくこととしている。</p>		
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>入職時に職員全員が、消防署による普通救命講習を受講している。また、法人内にて3年未満の職員を対象に危険予想訓練研修を行っており、ご利用者急変時や自己発生時に備えて、急変時マニュアルを作成し定期的に確認し、速やかな対応が出来るよう努めている。</p>			
34	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防計画に従って、避難訓練を年2回行っている。その内、地域との合同訓練の際には、福祉用具の使用法や留意点を説明している。また、小規模特養と合同の夜間想定訓練も行っており、連携を図っている。</p>	<p>年に2回、うち1回は消防署の参加を得て地域との合同で、うち1回は同一敷地内施設の協力を得ながら避難訓練を実施している。火災・地震の訓練の経験がある。夜間想定も実施している。地域との合同訓練では地域や家族からも参加が有り、福祉用具の説明・啓発なども行っている。法人として、水・食料などの備蓄がある。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員倫理規定を定め、年度当初に全職員を対象とした、尊厳やプライバシーについて研修を行っており、日々の業務での個々の言葉かけについて、振り返り対応している。また、メディアに取り上げられたことなどをミーティング等で情報共有しながら、職員間で意見交換を行っている	尊厳については、年度当初に全職員で研修し、大切にしている。特に排泄や入浴の際の声掛け、会話など、自尊心を傷つけないように配慮し、職員間で注意し合っている。気づいたことは折々に話し合って共通意識になるよう努力している。利用者の「誇り」なども訊き出すよう話し合っている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを通して、表情や言葉等を観察し、ご利用者の思いを聞きながら自己決定しやすいような問いかけをしている。個別ドライブでは、担当職員を中心にご利用者と共に計画を立て、希望を確認しながら実施出来ている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを整えるため、目安の時間帯はあるが、個々の体調や希望に合わせて、食事や入浴の時間等を臨機応変に対応している。ご利用者の趣味や特技を活かし希望に添って支援している。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の変わり目等に、ご家族の協力を得ながら服装に配慮しており、衣替えの際には担当職員とコミュニケーションを図りながら、一緒に行っている。法人内で定期的に行われている、『いきいき美容教室』に参加し、おしゃれを楽しまれている。散髪に関しては、行きつけの理容室に行ったり、地域の			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段は職員と一緒に、ご利用者一人ひとり好みに合わせてご利用者が自主的に盛り付けし、配膳をしている。片付けは、声を掛けながら一緒に行っている。行事の際、郷土食を料理を作るので、ご利用者から聞きながら調理している。また、本体特養と一緒にバイキング食や事前に個々の希望を確認し選択食を月数回行ったり、希望を聞き外食支援を行っている。	三食とも、他施設と共同で調理されたものを、職員と利用者が協力して配膳・盛り付けし、暖かい料理を食している。栄養士の献立は季節感に溢れ、多彩である。後片付けまで多くの利用者が役割をもって参加している。バイキングなど月1回の行事食も有り、おやつづくり、個別外食なども有り、食の楽しみには十分配慮している。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人内に管理栄養士も配置されており、栄養面をこらうよされた献立となっている。その中で硬い物、嫌いな物、摂取禁等本人の状態に合わせ食事を提供している。一日の水分量の目安を立て、それに近づける様、本人のこれまでの生活習慣を情報収集し、声かけを工夫している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人に合った口腔ケア用品を準備し、毎食後の口腔ケアの声がけ、促しを行っている。又、必要に応じて職員がブラシングの支援している。口腔内に異常があった場合は、ご家族に連絡し、かかりつけ医への通院依頼や歯科の往診対応も可能となっている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターンの把握し、ご利用者の自尊心を傷つけないような声かけや誘導を心がけ、リハビリパンツやパットの交換を促し、清潔が保てるようにしている。夜間帯ポータブルを使用し排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを話し合い、排泄の自立継続を図っている。職員は、「なるべくトイレで」を念頭に、利用者の仕草の変化に気を配り、トイレの呼びかけや誘導を行っている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日分の水分量の目安を立て水分摂取出来るよう声かけや体を動かしたりしている。また、排泄チェック表を使用して排泄確認をし、1人ひとりに排泄パターンに応じて、排便が見られなかった際は、医師より処方された薬の服薬などをし排便コントロールを行っている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は一応決められているものの、ご利用者の希望や状態に応じて入浴していただけるようになっている。また、家庭用浴槽が難しいご利用者には、法人内の事業所でリフト浴や機械浴も対応できるよう、職員間で情報共有している。	利用者の希望を訊き、体調を見ながら、午前または午後に入浴できるように支援している。身体機能に応じて、法人施設のリフト浴を活用するなど、柔軟に支援している。入浴を好まない人には声掛けを工夫しながら清潔が保てるように支援している。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣(起床・就寝・食後の休憩等)や、その時の本人の体調や状況に合わせて、声かけをし対応している。また、夜間帯は、本人に確認しながら部屋の明るさに配慮し、使い慣れた寝具等でゆっくり過ごして頂けるよう支援している。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご家族対応の通院は、内服薬の継続や変更の確認をしている。内服薬変更時には、職員間で口頭・パソコンにて申し送りを行ない、処方箋で目的や副作用、症状の変化の確認に努めている。また、処方箋については職員がいつでも確認できるように、ファイルにまとめて保管している。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族・ご利用者に聞き取りを行い、アセスメントを基に一人ひとりの生活歴や力に合わせ、張り合いや喜び満足が得られるように支援している。GH内の畑にて作物を育て、収穫・調理・食べる喜びや達成感を持って頂けるよう取り組んでいる。また、本人の希望に合わせて個別支援を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族・法人内事業所と連携を図り、季節を感じて頂けるドライブやご利用者の希望に添った外出が出来るよう支援に努めている。またご利用者の希望を把握し、ご家族や地域の方々の協力を得ながら、近所の散歩や買い物等日常的な外出も職員と一緒にやっている。	広い敷地内を散歩したり、「おらほの畑」で水やりや草取りをしたり、近所の商店での買い物に同行するなど、日常的にできるだけ外気に触れる機会をつくっている。また、家族や法人施設と協力し、年間を通じて花見や紅葉狩りのドライブ、馴染みの場所訪問、外食などを楽しめるように支援している。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族に説明をし、理解を得て小遣い金を頂き、金庫にて保管している。ご利用者から希望が聞かれた際には、ご家族へ相談しご利用者の小遣い金で購入して良い物は、職員と一緒に買い物に行き購入している。また、毎月小遣い帳にて出納を管理し、ご家族にお知らせしている。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所有している方もいた。希望時には、ご家族と手紙のやり取りが出来るように支援している。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅のようにくつろげるような心地よい空間を心がけ、居間に季節にあった掲示物をご利用者と職員とが一緒に作成し、アレンジメントの花を注文し、季節を感じられるようにしている。また共用空間と居室の温度チェックを1日2回行い、快適に過ごせるようにしている。GH敷地内の畑に作物を植え、ご利用者よりアドバイスをいただいたりと一緒に水やりや収穫を行っている。	玄関を入り、美しい絵画などで飾られた廊下を進むと、広い居間が有る。居間からは、明るい庄内平野を見下ろせる。そこにはテーブルやソファやテレビなど品の良い調度品があり、花も飾られている。隣接してキッチンがある。利用者は、食卓やソファでそれぞれ寛いだり、作業をしたり、学習したりしている。温度湿度などにも配慮され、清潔感も有り、大人向きの落ち着いた快適空間となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は気の合うご利用者同士で過ごさせるよう配置等検討されている。また、テーブルやソファがあり、ご自分の好きな場所でテレビを身なり談笑されて過ごされている方もいる。		
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族へ説明し理解と協力を求めている。実際に使い慣れたタンスや椅子、テレビ、ラジオ、電気毛布など自宅で馴染みのある物を持ち込んでいる方もいる。	各居室には、馴染みの椅子、衣装箱、テレビ、ラジオ、電子時計などが持ち込まれ、壁面には家族や行事の写真が貼られている。これまでの生活が延長した居心地の良さそうな居室となっている。清掃もなされ、快適そうな個室である。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札を設置しており、自室の認識が出来るように配慮している。また、目の不自由なご利用者が自立して生活できるよう動線に物を置かないよう環境を整えている。		